S O T O 禅 インターナショナル

発行日　2006年４月25日　　発行人　福島伸悦
編集責任者　淺井宣亮　　編集担当　菅原研洲　　編集委員　亀野 舘盛 細川浩
発行所　SOTO禅インターナショナル事務局　〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3
Tel. 045-843-8852　Fax. 045-843-8864　　URL: http://www.soto-zen.net/
郵便振替　00100-6-611195　SOTO禅インターナショナル

Vol.31

CONTENTS

●巻頭　「守・破・離」の国際布教 …… 大本山總持寺後堂　禅カウンセリング研究所所長　野田　大燈　1
●特集　2006年度　総会講演会
「日本仏教はいかに世界貢献をなすべきか」 …… 東京外国語大学教授　町田　宗鳳　2
●総会報告　2006年度　総会議事録 …… 6
●総会報告　2005年度事業報告・決算 …… 8
●総会報告　2006年度事業計画・予算 …… 9
●国際布教支援積立金の運用について …… 10
●国際レポート「セガキ・セレモニー　イン　オランダ」 …… 富士市慶昌院　住職　磯田　浩一　12
●『海外寺院ガイドブック』編纂について …… 14
●ＳＺＩ通信　・会費納入単・動静報告 …… 15
・ウェブサイト・ブログサイトの広報 …… 15
●ＳＺＩ通信　両大本山ワークショップのご案内 …… 16

巻　頭

「守・破・離」の国際布教

大本山總持寺後堂　禅カウンセリング研究所所長　**野 田 大 燈**

昨年秋、ペンシルバニアでの晋山式に随喜しました。この平等山禅道場を開かれたベナージュ大圓さんが四国八十八箇所巡拝の遍路姿で私の喝破道場を訪れたのが約30年前。当時の喝破道場の佇まいは、海抜400メートルの山中に直径約２メートルの醤油ダルの庵と、廃バスの椅子を除けて畳を入れただけの本堂兼禅堂。そして建設現場の中古プレハブを移設した厨房兼食堂のみのおおよそ常識的にいう「寺」とはかけ離れたものでした。この現状を目の当たりにした彼女は「これでも「寺」と言えるのなら私にも出来る」と思ったそうです。その後は参禅・得度を通して共に山を切り拓き、自給自足の生活体験の後に愛知尼僧堂に掛搭。そして故郷に帰り十幾年の苦闘を経ての晋山式でした。

禅の原点は「生活」にあります。その「衣食住」の生活に地域差があって当然で、禅の心を拠り所として地域の生活に適応していくことこそ国際布教の基本だと思います。気候風土の全く異なるインドに端を発した仏教が東漸して日本に至れたのもその故です。建物や法式を否定するつもりは毛頭ありませんが、形にとらわれては心を失います。

日本の宗教自体が少子高齢化と国民の宗教不信から大きな変革期にあり、葬儀・法要を主目的としない寺院運営を迫られています。宗門でも昨年より宗務庁の補助を頂いて両大本山より各２名の修行僧が海外へ研修に出ています。總持寺での禅カウンセリング研究所設立もその一助です。その意味ではむしろ諸外国の禅布教のあり方を参考にする必要があります。

因みに大圓さんの「寺」は約80年前に立てられた３階建てのアパートだったものです。大圓さんは日本で禅の髄を取得し、形にとらわれることなく大圓流に活動しておられるのが何よりも嬉しい限りです。

特集 ／ 2006年度　総会講演会（前編）

日本仏教はいかに世界貢献をなすべきか

東京外国語大学教授　町 田 宗 鳳

こんにちは、町田でございます。今日はSOTO禅インターナショナルの総会講師として呼んで頂きありがとうございます。時間が十分にはありませんので、駆け足で話をしなければならないと思っておりますが、よろしくお願い致します。

世界遺産・道元禅師の教えを生かすために

私は、仏教を文明史的な流れの中で見るようにしています。臨済宗とか曹洞宗とか浄土宗、浄土真宗という区分けの中で、法然さんを見たり日蓮さんを見たり親鸞さんを見たりするのではなく、日本仏教という大きな思想体系を造る上でそれぞれ役割を果たされた思想家として、各宗の御開山様を見ています。

その中で、曹洞宗の道元禅師とおっしゃる方はスケールの大きな思想家で、非常に深い哲学性をお持ちの方であると思い、これから日本仏教が世界に打って出る上で、とても大切な役割を果たされるお方だと理解しております。ですから、高祖承陽大師として奉り、曹洞宗という枠の中だけで捉えてしまうのは非常にもったいない話だと考えているわけです。いままでは国宝として通用した道元さんがおられる、しかしこれからは世界遺産になっていただかなければなりません。

それは自動的になるのではなく、国宝が実際に世界遺産として認められるためにも、地域の人が運動したり、いかにそれが貴重な財産であるかということを委員に説得工作に走ったりもするわけです。道元さんのことも、内部の方あるいは日本人が十分に理解して、それをその後一度解体・脱構築して、もう一度構築する努力が必要だと思います。そうでなければ、日本の国宝としての道元で終わってしまいます。世界の人が振り向き救われる道元の思想とならなければいけないと思います。

宗教対立解決に日本の果たす役割

今、世界の動きの中で、イスラム教徒と非イスラム教徒の対立が深まっております。湾岸戦争以来、物騒なことが続いております。そして、テロリズムとイスラム教が一体視されるような、そういう見方も出てきました。最近ではムハンマドの風刺漫画を引き金として世界各地で暴動が起きております。これは非常に憂慮すべき状況だと思います。これは下手をすると、世界がイスラム教文化圏と非イスラム教文化圏に二分してしまうという、非常に悪いシナリオが展開する心配もあるわけです。

私は毎年のように三つの国の外務省、バーレーンとイランと日本の外務省が共催をしている「文明間の対話セミナー」に参加しております。去年はテヘラン、今年はチュニジアに行き、イスラム教の代表者と会議をしてきましたけれども、イスラム教の人達は非常に被害者意識が強いと感じます。それぞれ湾岸諸国を代表するようなイスラム学者が来るわけですけれども、非常に被害者意識が強いというか、自己弁明に一生懸命になるわけです。そしてアメリカに対する嫌悪感が如実に表れています。ですから日本にその橋渡しをして欲しいという気持ちが強くありまして、毎年イスラム側は15人くらい湾岸諸国から参加しますが、こちらは日本だけなのです。

日本からは毎年８人の学者が選ばれて行くわけですけれど、いかにイスラム教の人達が危機感を持ち、日本という国に大きな期待を抱いているということを常にひしひしと感じさせられます。そういう時に、日本が単に外交的に欧米諸国、特にアメリカとイスラム圏との橋渡しになるだけではなく、日本が分裂する世界の仲介者になるためには、思想的バックボーンがなければ弱いと思います。政治的外交的な動きだけでは弱いのです。

やはり、一神教の人達同士の争いなのです、今起きているのは。パレスチナ問題にしろユダヤ教とイスラム教の対立ですし。ブッシュ大統領に代表されるアメリカのネオコンも背後におりますけれども、そこにはかなり頑迷なキリスト教原理主義があるわけです。それとイスラ

ム教の原理主義者との対立もあり、結局一神教が三つ巴になって非常に血なまぐさい戦いを展開している。ヨーロッパと中東、アメリカとが軸になって、人類を破滅の危機に陥れるかもしれない程の危ない火遊びをしているわけです。

そういうときに、やはり日本がすべき役割というのは大きいものがあると思うのですが、先ほど申しましたように、政治的なあるいは経済援助的な仲介の仕方では不十分だと思います。やはり日本人として、確たる思想的バックボーンを持っているべきだと。そのように考えております。そして、そこでの思想的バックボーンの中枢に道元禅師の思想というものが入ってくるのではないかと、私は直感しています。

イスラム問題の解決の糸口

もう少し、イスラム問題について話します。

一神教の人は経典の民と言われていますから、割合に神話を信じています。それぞれ、『トーラー（律法、ユダヤ教の経典）』とか『聖書』とか『コーラン』に記されている神話を固く信じている。神話というのは、決してフィクションという意味ではないです。神話というのは各文化の最も根本的な基盤を造る非常に大事なものです。日本にも『古事記』と『日本書紀』があります。

経典の民ですから、彼らも一神教的な神話を信じている。それは何かというと、『聖書』に「イスラエルと反キリスト教勢力との最終戦争、ハルマゲドンが起きる。それが起きるとローマ時代に昇天したキリスト、救世主が再び地上に降臨する」そういう預言があるわけです。まあ、他教徒から見たら単なる物語にしか過ぎないですけど、キリスト教の原理主義的な立場の人は確固たる事実としてこれを信じております。

アメリカで非常に大きな勢力を持っているキリスト教連合などでは、エルサレムにある黄金のドーム、岩のドームとも言われますが、イスラム教の３大聖地であるであるこのドームを壊して、もう一度ソロモンの神殿を建てなければ救世主が降りてくるところがない、と本気で信じているわけですから恐ろしい話です。

イスラム教の方もコーランに「救世主のマフディという人が再びキリストの再臨の前に降臨してくる」とされており、信じています。マフディという救世主です。イスラム教徒は『聖書』も信仰していますから、キリストの再臨ということは受け入れるわけです。しかしその前にマフディという人が必ず降りてくる、この理解の仕方にシーア派とスンニ派の違いがあるのですけれど、どちらにしろ、現在イスラム教にも非イスラム教にも、非イスラム教というのは特にユダヤ教とキリスト教が主体となった勢力ですが、「こういう対立が深まれば深まるほど救世主の再臨が近づいているのだ」、そういう期待が両者共にあるのです。

これはブッシュ大統領の方にもあります。あの人はボーンアゲイン（改心者）と言われるくらい非常に熱心な福音主義的なクリスチャンですから、『聖書』をとても丁寧に信じていると思います。イスラム教の方も、特に『聖書』には、自分達の聖地が炎に包まれるとか、何か空から飛んでくるものに破壊されるとか書いてあるわけですから、まさにアフガニスタンとかイラクで起きていることは預言された通りのことが起きているわけです。悲惨な状況なのですけれど、「これからやっと我々のメシア、救世主がやってくるんだ」という期待もあるのです。それを煽り立てているのが今のイランの大統領アハマディネジャドという人です。彼は熱心なマフディ信仰家らしいです。

このように、現実の背後には、古代からの神話が厳然として人々の心の中に居座っているわけです。こういう世界に行って日本が仲介をするということは、並大抵の事じゃないです。よほどの政治力がないとだめでしょうし、よほど相手の歴史的宗教的背景を理解していないと。ただ入っていって、仲良くして下さいだけではすまないです。そういう時に、やはり思想的基盤を持っていないと口を差し挟むわけにはいかない。

私は最近色んな政治家の人に会う機会が増えてきましたが、政治家の人達には歴史とか宗教とかを勉強するヒマは全然ありません。そういう意味で、宗教家とか宗教学者といった思想を事とする人間がしっかり自覚して、それを伝えていく必要があると思います。

「有」の文明と「無」の文明

今日は、時間の関係で大雑把な話をせざるを得ませんが、世界を「有」の文明と「無」の文明と二つに分けることにします。

一神教の方は「有」の文明です。一神教の方は明らかに「有」というものが実体であると、確かに存在する。鉄よりもコンクリートよりも堅い存在として神がおわしますわけですから、神は絶対に否定できない。姿・形をお持ちにならないけれども、超越的な神ではあるけれども、その存在は鉄よりもコンクリートよりも確かな実体である。究極の「有」としての神なのです。ですから、この地上に堅固なるものを造ることに意義が有るわけです。だから大聖堂を造ってみたり、現代ではニューヨークに見られるような摩天楼を造ってみる。どの国のどの建物をもしのぐような高くて堅固な建物を造る。「有」を肯定する文明です。神がこの世を創造されたのだから、この世を荘厳なものにしていかなければならない。より高く強いものを造ることに意味があるわけです。

リーダーに求められるもの

もう一つ「有」の文明の基盤となっているのは、「個」です。神は人間を自分の似姿にお造りになったという考え方があります。ですから、優秀な「個」はより神に近いわけです。西欧世界でリーダーになるという人は、より神に近い距離におられる。人格も優れているし、能力も人並み優れてあると。だからリーダーに選ばれる人は多くの人に尊敬されるのが当然であると。これを私は一神教的リーダーシップと呼んでいるわけです。アメリカの大統領などは典型的です。今のブッシュさんになって権威が少し落ちましたけれど、それまでアメリカ大統領といえばもう生き神様です。ホワイトハウスという御神殿におわします神聖政治のキングです。アメリカ国民にとって潜在意識的にはそういう意識だと思います。だから、スキャンダルを起こすというようなことがあると非常にがっかりしてしまいます。

また、リーダーという立場に長くいる人、大学の学長にしろ社長にしろ非常に大きな権限が与えられて、一度トップが変わると全部管理職がすげ替えられます。というのは、トップのビジョンが短時間に実現しないとそのトップの能力が問われるわけですから。大学でいえば、学部長から学科長まで全部替わってしまって、新しい学長のビジョンがまあ3年以内位に実現しないと、能力なしということで理事会からクビになるわけです。一方、能力ありということになれば、終生学長でいることも出来ます。企業の取締役もそうです。アメリカでは法外な給料を貰っているわけですから。何十億という年俸を貰う人がいるわけですが、それにはそれだけ一人の人に会社の命運を預けるというリーダーシップの在り方があるわけです。

日本とはえらい違いです。日本では名前ばかり、まあ仲介役ですね。リーダーというのは、色々な派閥が意見対立しているのを上手くまとめてやる。そういうのが良いリーダーと思われ、なかなかリーダーシップというものが発揮しにくいという構造があります。ワンマンな事をすれば、いっぺんに部下に嫌われて村八分になる、そういうことが良くあります。それはやはり一神教的なコスモロジーあるいは多神教的なコスモロジー、どちらのコスモロジーを基盤に持つ文化かということで決まってくるわけです。

日本では総理大臣でもそれほど権力を持っていない。小泉さんはやや異色な宰相ですけれど、首相といえどもそれほどの権限は持たない。これはやはり、その根っこはリーダーシップの性格に有るわけです。

この「個」の能力を非常に高く評価する場合、アメリカなんかは典型的ですけど、過当な競争があって勝ち組と負け組、持てる者と持たざる者が白黒はっきりするわけです。アメリカンドリームと言いますけれど、これは能力のある「個」はどれだけでも成功の機会を与えられるわけです。野球の選手やバスケットボールの選手も法外な年俸を受けるわけですが、それはやはり技術に長けてそれを貰う資格があるという考え方があるからです。「個」の能力というものが非常に厳しく問われるわけです。

それはそれで良いですが、やはりそれが行き過ぎると世の中色々ひずみが出てきます。アメリカなどもノイローゼや鬱病など精神疾患を病んでいる人が多いわけですけれど、それは負け組に押しやられた人が心を病むということもあるし、たとえ勝ち組に入っていても、常に勝ち続けなければいけないという不安からくるケースも沢山あります。

「有」の文明の行き着くところ

この「有」の文明の構造を造っている要素が「個」なんですけれど、私はそろそろ「有」の文明が疲弊してきたのではないかと感じております。あまりにも産業の発展、市場経済の繁栄をうたうが故に、自然環境の破壊も起きていますし、貧富の差が広がることによってそれが紛争に繋がっていく。色々な問題が起きています。かつては、能力のあるリーダー・理想的な「個」・神に近い人というような考えがありましたが、今、実は欧米でも宗教離れが起きている。ニーチェが「神は死んだ」とか、デカルトが「我思うが故に我あり」ということを言ってから、神から切り離された個人主義がどんどん加速度的に強くなっています。

私は日々、大学で世界の学生を教えているわけですが、ヨーロッパの学生、イタリアあるいはフランス辺りといった非常にカトリックの文化が濃厚な国から来ている学生に聞いてみると、「ほとんど教会に行くことはないし、宗教の話をすることもない」と、「バチカンなんかは実に頭

の固い教会だ」などと言う学生がいて、こっちはびっくりするわけです。

たまにヨーロッパなどに行って、りっぱなカテドラルなどを見て、「ああなんという重厚なキリスト教文化があるのだ」というように理解しているわけです。しかし、今の若い世代に聞いてみたら、もうツバでも吐きかけんばかりの勢いでキリスト教の批判をするわけです。まあ、彼らの深層心理にはまだまだ濃厚にキリスト教の文化というものがあります。けれども、表面的な生活の中ではどんどん宗教の要素が薄れているのです。

神から切り離された「個」というものは、自由になったようであって、何をしても良く、道徳というものはあまり問われなくなった。神の目を気にしなくても良くなった。その一方で、非常に底のない不安に駆られるわけです。どんどん自由を謳歌していくのだけれど、果たして自分は何なのかと、一体自分は何のために生きているのかと、根無し草のような生活になってくるわけです。

巨万の富を得て、名声を勝ち取ったとしても、人間としての不安は否定が出来ないものがあるのです。環境破壊や貧富の差を作っている、あるいはこの不安を煽り立てている、あるいは国際社会で様々な紛争を引き起こしているという意味でも、「有」の文明はそろそろ役割を終えつつあるのではないかと。

これが悪いと言っているわけではないのです。文明史というのはこういううねりがありますから、うねりの中で果たすべき役割があったわけです。特に、近代科学を産み出し、近代産業を推進してきた。そういう意味では「有」の文明、西欧文明はそれなりに大きな役割を果たしましたけれど、それは永遠ではありません。必ず文明史にはうねりがあり、うねりのピークにある時は世界的な影響を持ちます。ローマ帝国にしろ、イスラム文明にしろ、中国文明、色んな文明が当番のように替わっていくわけです。最近でいえばヨーロッパ文明があり、その次にアメリカ文明、20世紀から今にかけてはアメリカ文明と言い切って良いと思いますが、やはり永遠ではないのです。必ず衰退が来るのです。それで国が消滅するということではないですが、影響力は削がれていきます。

文明のアジア的段階へ向けて

会議でイランに行きますと、皆さんがアメリカのことをこっぴどくこき下ろすわけですが、実際に街に出て大きな買い物でもしようかとすると、皆さんアメリカドルしか受け取らないのです。非常な矛盾です。あそこまでアメリカのことをひどく言っておきながら、いざ取引しようとすると、例えばカーペットでも買おうとすると、「USドルじゃないとだめです」と言うわけです。それほどアメリカの影響力というものは世界の津々浦々まで及んでいる。今、文明の趨勢としてアメリカがそれだけの力を持っている時です。

実際のアメリカの経済力からは、かけ離れています。しかし、波の上に来た時には、文化的にも宗教的にも政治的にも軍事的にも必ず、帝国というものは世界に大きな影響力を持ちます。おそらくこれからどんどん落ちていくと思いますが。

次に来るのは何かと申しますと、文明のアジア的段階が来るのではないかと。そのような予感がしています。では、このアジア的段階で果たすべき仏教の役割とはどんなものでしょうか。　（以下次号）

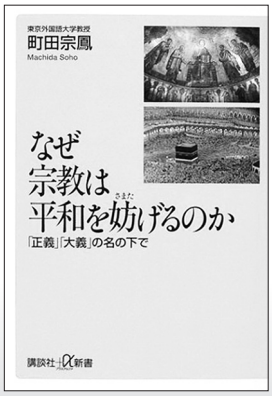
町田宗鳳先生の著書をご紹介します。

前衛仏教論

ちくま新書
出版社：筑摩書房
ISBN：4480062084

仏教といえば、「葬式」「法事」「お墓」など、死者のイメージがつきまとう。あるいは意味不明のお経、丸もうけする坊主…およそ普通の日常とは縁がなさそうだ。しかし、仏教は本来、宇宙に遍満するあらゆる〈いのち〉を慈しむ。私たちを生き難くするあらゆる束縛から解き放ち、のびのびと今を楽しむ自由な自分を取り戻す道であるのだ。本書は、破天荒な宗教学者が、閉塞した日本仏教への大胆な提言を交え、その思想としてのおおらかさを再発見する試み。

なぜ宗教は平和を妨げるのか
—「正義」「大義」の名の下で



講談社プラスアルファ新書
出版社：講談社
ISBN：406272233X

アメリカ教・キリスト教とイスラム教、終わりなき戦い！！宗教・民族・領土・政治・経済の原理が世界を複雑にし、国家間や民族間対立の溝を深くする。歴史をひもとき、正義の仮面の下で宗教を歪める人間のエゴを衝く！

総会報告

2006年度　総会議事録

2月28日（火）、「2006年度SOTO禅インターナショナル（以下SZI）総会」が曹洞宗檀信徒会館にて開催されました。椅子坐禅と国際布教没故者諸精霊への供養の諷経が厳修され、午後2時より開会となりました。今回は、福島伸悦会長になってから最初の総会であり、40名を超える多くの皆さまにご参集いただき、滞りなく行われました。

冒頭挨拶

まずはじめに挨拶に立った福島会長は、早くも1年が経ったことを振り返りながら、「多くのスタッフの支えがあって、当初計画したプロジェクトも進んでおります。」と感謝の言葉を述べ、「活動テーマである〈人・情報・縁　－運動から行動へ－〉に従いながら、私自身が目標に掲げる〈SZIブランドの確立〉に向けて、国際布教に対して、曹洞宗だけではなく日本仏教界の中でも、シンクタンクとなっていけるよう努力したいと思います。」と強く宣言されました。また、SZIが国際布教の支援を行うに当たっては、曹洞宗宗務庁教化部国際課との連携を強固なものにしていかなくてはならない旨を述べた後で、SZIが準備している『海外寺院ガイドブック』の作成において、支援協力をお願いしていることが伝えられました。

来賓には、諸般の事情によりやむをえず急遽欠席となった河村松雄教化部長に代わり、小林千秋国際課長にご出席いただき、ご挨拶をいただきました。小林課長は、平成3年に国際課の設立がなされた経緯を簡単に述べられた後で「一番新しい課ではありますが、既に15年が過ぎました。設立時の熱い思いを忘れずに国際布教全般を所管する機関として活動していきたい。」と表明されました。また、最近、国際布教に携わることを願う若い僧が減っていることを危惧しながら、その原因として語学の問題・情報の不足などを挙げ、曹洞宗総合研究センター教化研修部門での国際布教コースの復活や、両大本山・専門僧堂から海外へ人材派遣をしている事例を報告されました。そして、「宗費で行う国際布教には、平等性を重んじる行政機関であるがゆえの限界がありますが、個別的な支援としてSZIの役割に期待しています。」と、今後ますますの協調連帯関係を深めていくことを改めて確認されました。

議事

始めに議長には山本健善老師を選出し、議事の進行をお任せしました。順を追ってその経過並びに結果をご報告いたします。

まずは、2005年度の活動について亀野哲也事務局長から、両大本山ワークショップや新旧南米総監慰労壮

行会、ゆめ観音アジアフェスティバルをはじめとして多くの活動がなされたことと、その経緯や結果報告があり、続いて大谷有為会計から2005年度の決算報告がなされました。昨年度のSZIの活動や会報発行は順調に進み、また予算の執行も適正に行われ、監事による監査も通ったことも重ねてお知らせしておきます（8頁に詳細な事業報告書及び収支決算報告書を記載しています）。

ここで、会場からのご質問・ご意見などを受け付けたところ、2つの質問が出ました。1つ目は予算に関することであり、昨年SZIは、「助成金」を150万円と見込んでおりましたが、結果として120万円でした。この内訳を聞きたいというご質問を頂戴し、大谷会計から両大本山より50万円ずつ、宗務庁より20万円を助成していただいたことを応答いたしました。また、2つ目は、昨年度の活動の中に、フランス・リヨンで行われた世界宗教者会議に当会の役員が参加した経緯を聞きたいということでしたので、当事者である大谷会計より、以前から宗門の方に同行して同会議に参加していた旨を伝え、昨年度もやはり宗門の方から誘われて参加した事実関係を端的に応答いたしました。質疑応答の後は、満場の拍手をもって承認されております。

続いて今年度の事業計画案が、亀野事務局長から発表され、テーマは昨年と同じく〈人・情報・縁　－運動から行動へ－〉であること、昨年同様に両大本山ワークショップを開催し、両大本山の安居者に国際布教の実態などを伝え、ゆめ観音の協力を行うことで世界平和・世界友好の架け橋となるべく活動することが示されました。なお、今年はハワイの大正寺様で創立90周年を迎え、ドイツの普門寺様で創立10周年の記念行事がありますが、それらにも支援や協力をすることが示されました。他にも現在の状況としては、『海外寺院ガイド』の編集（詳細は14頁に紹介しておりますので、ご参照ください）を行って宗門内外に宗門海外寺院の場所や活動を伝えるべく、ガイド資料の作成を目標にしております

し、従来発行された会報30号までの総集編をまとめる予定となっております。（９頁に事業計画案を記載しております）

大谷会計からは今年度の予算が提示されましたが、ほぼ昨年度と同程度の予算が提示されました（９頁に詳細な収支予算書を記載しております）が、『海外寺院ガイド』に多くの予算が必要になるため、従来積み立ててきた国際布教支援積立金から100万円を取り崩すことが、同ガイド編集担当である細川正善副会長から示され、完成までの作業工程と具体的な時期の計画案が出されました。

ここで、また会場からのご質問・ご意見などを受け付けたところ、質問が１つあり、会費収入について昨年度の決算では280万円の見込みのところ、263万円に留まったにもかかわらず、今年も同じ280万円の会費収入を見込んでいる理由と、昨年度の会費納入が減った原因は退会に基づくかどうかの確認を質問されました。この質問に対しては、大谷会計が応答し、例年280万円から20万円程度の上下があることが説明され、また亀野事務局長からも退会者としての納入減ではないことが提示され、年度によっては会費納入が年度の変わる前後に集中する場合があるため、会計上会費収入が上下することが明らかにされました。質問の後は、満場の拍手をもって承認され、今年度の活動および予算は決定されました。

また、SZIが当初から集めて参りました国際布教支援積立金運用細目について担当の飯島尚之副会長から提示され、討議されました（詳細は10・11頁の紹介及び告知記事をご参照ください）。会場からはお二人の方から、最初から不備があるかどうかは分からず、今後運営していくに当たってその都度問題点の修正を行いながら、支援事業を進めていくのが良いのではないか、という意見が表明されて、挙手による多数決によって積立金の運用規定は承認されました。

その他のご意見としては、『曹洞宗宗制』ではすでに「海外開教」は「国際布教」に改められているにもかかわらず、会則の文言に「海外開教」が残存していることが指摘され、「国際布教」に統一することとしました。また、SZIは各国際布教総監部などとも情報を共有しながら、その情報収集センターとしての機能を高めるべきではないか、との提言を頂戴し、こちらも事務局からは積極的に対応するべく人員を配置していきたいという応答がなされました。

総会は、今年度の活動のみならず今後SZIがとるべき方向性を定める重大な内容を含むものでしたが、多くの方のご参加とご協力により、以上の結果をもって議論は円滑に終了しました。今回承認された議案を元に、執行部一同さらに各行持に邁進していく所存です。

議事の後に行われました記念写真撮影は本会報の表紙に掲載しておりますので、ご参照ください。

講演会

午後３時20分からは、東京外語大教授の町田宗鳳先生に「日本仏教はいかに世界貢献をなすべきか」と題してご講演をしていただき、総会同様多くの聴衆にお集まりいただきました。町田先生からは面白く、かつ多くの気付きを頂戴する有益なお話をしていただき、終了後の質疑応答も活発に行われました。この詳細は２～５頁に掲載してありますので、ご参照ください。

懇親会

午後５時からは曹洞宗檀信徒会館６階のレストラン・パンセにて、懇親会が行われました。こちらも例年を上回る参加者がありました。始めに福島会長から、総会から懇親会に至るまで多くの方々にご参加いただいたことへの御礼が述べられた後で、前南米総監・三好晃一老師から乾杯の発声を頂戴して開宴となりました。今回は、ゲストに柳澤NOBUさんを招き、ギターによる弾き語りを聴きながら、懇親を深めるという、これまた例年とはひと味違った会となりました。

懇親会の最後には、今回ご参加いただいた諸老師方から、SZIと国際布教に関して所感を述べていただいたのですが、やはり今後の宗門の布教活動全般に影響するであろう海外の動向には注意深く関心を払い、必要であれば何人でも現場に送り込んで、多くの経験を積むことの重要性などが熱く語られ、熱気を保ったまま散会となりました。ご参加いただきました皆さま、大変にお疲れ様でした。　（SZI事務局記）

SOTO禅インターナショナル 2005年度収支決算報告書

総収入金	4,508,265円
総支出金	4,356,328円
差引残高	151,937円

収入の部

2005年１月１日～2005年12月31日

項目	本年度予算	本年度決算	増減	備考
会費収入	2,800,000	2,630,000	△ 170,000	年会費
事業収入	300,000	130,000	△ 170,000	総会会費等
助成金	1,500,000	1,200,000	△ 300,000	両大本山、宗務庁
雑収入	400,000	353,000	△ 47,000	利子、添菜
繰越金	195,265	195,265	0	前期繰越金
計	5,195,265	4,508,265	△ 687,000	

支出の部

項目	本年度予算	本年度決算	増減	備考
国際布教支援事業費	700,000	300,000	△ 400,000	国際布教支援事業、国際布教支援積立金
事業費	1,800,000	2,093,217	293,217	総会、講演会、ゆめ観音、海外研修費等
印刷費	200,000	123,951	△ 76,049	各種印刷費
会報費	1,300,000	1,048,150	△ 251,850	会報印刷、発送費、会報担当費、原稿料
会議費	500,000	360,607	△ 139,393	各会議費、会議交通費支弁
事務費	300,000	176,432	△ 123,568	事務連絡費、消耗品費、振込手数料
通信費	200,000	210,303	10,303	会報以外（総会報告等）の郵送費等
備品費	30,000	0	△ 30,000	
渉外費	40,000	43,668	3,668	弔電、供花等
予備費	125,265	0	△ 125,265	
計	5,195,265	4,356,328	△ 838,937	

○ 国際布教支援積立金（定期貯金・前年度迄）	10,800,000 円
（本年度積立又は取崩）	300,000 円
（本年度累計額・定期貯金）	11,100,000 円

上記の通り報告書を提出いたします　2006年２月28日
SOTO禅インターナショナル 会計　大谷 有為

監査の結果、上記の通り相違ありません　2006年２月21日
SOTO禅インターナショナル 監事　加藤 孝正　田宮 隆児

2005年度 ＳＺＩ事業報告
（2005年１月１日～12月31日）

★ 自己研鑽事業
井上順孝先生の本を講読
役員各自ブログ開設・運営

★ 布教・協力支援事業
６月27日　本山本講　講師　藤田一照師（大本山永平寺）
６月28日　ワークショップ　講師　藤田一照師（大本山總持寺）
７月10日～21日　熊本聖護寺・国際安居へ通訳・大谷師派遣（熊本・聖護寺）
７月19日～20日　大本山永平寺主催「夏期大学」運営協力（曹洞宗檀信徒会館）
随　時　海外寺院への仏具・法具を送る

★ 海外・交流事業
１月23日　国際布教師を囲む懇談会（東京）
６月28日　新旧南米総監慰労壮行会（東京）
７月８日　世界青年宗教者平和会議参加（愛知万博会場）
９月３日　「第７回ゆめ観音 in大船」（大船観音寺）
９月11日～13日　世界宗教者平和の集い参加（リヨン）

★ 出版事業
ＳＺＩ会報28号（５／31）、29号（８／15）、30号（12／15）

★ 広報事業
ＳＺＩホームページの運営
Ｅメールによる各事業の広報活動・情報提供

以上

SOTO禅インターナショナル 2006年度収支予算書

総収入金	5,851,937円
総支出金	5,851,937円
差引残高	0円

収入の部

2006年１月１日～2006年12月31日

項目	前年度予算	本年度予算	増減	備考
会費収入	2,800,000	2,800,000	0	年会費
事業収入	300,000	300,000	0	総会会費等
助成金	1,500,000	1,200,000	△ 300,000	両大本山、宗務庁
雑収入	400,000	400,000	0	利子、添菜
支援積立金取崩	0	1,000,000	1,000,000	
繰越金	195,265	151,937	△ 43,328	前年度繰越金
計	5,195,265	5,851,937	656,672	

支出の部

項目	前年度予算	本年度予算	増減	備考
国際布教支援事業費	700,000	300,000	△ 400,000	国際布教支援事業、国際布教支援積立金
事業費	1,800,000	2,800,000	1,000,000	総会、講演会、ゆめ観音、海外寺院ガイド作成費等
印刷費	200,000	200,000	0	各種印刷費
会報費	1,300,000	1,300,000	0	会報印刷、発送費、会報担当費、原稿料
会議費	500,000	500,000	0	各会議費、会議交通費支弁
事務費	300,000	300,000	0	事務連絡費、消耗品費、振込手数料
通信費	200,000	200,000	0	会報以外（総会報告等）の郵送費等
備品費	30,000	30,000	0	
渉外費	40,000	40,000	0	弔電、供花等
予備費	125,265	181,937	56,672	
計	5,195,265	5,851,937	656,672	

○ 国際布教支援積立金（定期貯金・前年度迄）	11,100,000 円
（本年度積立）	300,000 円
（本年度取崩）	1,000,000 円
（本年度累計額・定期貯金）	10,400,000 円

＊国際布教支援積立金運用資金細目に基づき取り崩す可能性があります

上記の通り予算書を提出いたします　　2006年２月28日
SOTO禅インターナショナル　　会 計　大谷 有為

2006年度 SZI事業計画

活動テーマ＜ 人・情報・縁 ー運動から行動へー＞

☆ 総会／講演会
- ２月28日（火）　曹洞宗檀信徒会館（４F 芙蓉の間）
- 講演会「日本仏教はいかに世界貢献をなすべきか」
  ／東京外国語大学教授 町田宗鳳先生

☆ 両大本山ワークショップ
- 總持寺ワークショップ　→　６月23日開催予定
- 永平寺ワークショップ　→　７月３日開催予定

☆ 熊本聖護寺国際安居通訳派遣
- ５月から７月の雨安居期間に１～２回

☆ 各種行事人材派遣 / 交流
- 夏期大学講座運営協力　７月25・26日

☆ 第８回ゆめ観音
- ９月２日（土）　12：00～20：00

☆ ドイツ普門寺創立10周年記念行事　支援・協力
- ９月９日～10日　ドイツ普門寺（ミュンヘン）にて
- 開単式、晋山式、報恩法要、記念講演などを予定
- ドイツ普門寺からの各種情報を日本の各関連団体へ提供
- 日本の各関連団体のツアー情報等の取りまとめ

☆ ハワイ大正寺創立90周年記念行事　支援・協力
- ３月５日　ヒロ大正寺（ハワイ）にて

☆ 会報発行
- 31号（４月発行）／ 32号（８月発行）／ 33号（12月発行）

☆ 会報総集編発行
- １号～30号（年内発行予定）

☆ 海外寺院ガイドのための情報収集
- 冊子としてまとめる（年内発行予定）

☆ SZIリーフレットの作成
- 新しいリーフレットの作成（年内発行予定）

☆ 国際布教支援金の運用
- 希望者の募集、対象者の選定、その他

国際布教支援積立金の運用について

「国際布教支援積立金運用細目」とは

1993年2月にSOTO禅インターナショナル発会してから13年、当初から目標としていた国際布教支援積立金の目標額1000万円に会員皆様のお陰様をもって達成いたしました事、まずもって御礼申し上げます。

つきましては、具体的にその活用を明確に皆様に示すため、昨年から１年間の検討期間を経て、今総会で「国際布教支援積立金運用細目」としてご承認をいただきましたのでご報告申し上げ、別記細目のご確認をよろしくお願いいたします。

さて、特記すべき事項は、第２条（目的）「この細目は、SOTO禅インターナショナルの会則にある目的と事業（育成支援、自然災害支援を含む）より円滑に推進するために拠出を行うことを目的とする。」であります。これは、海外から曹洞宗の僧侶を志す方々の支援はもとより、曹洞宗の海外寺院における記念諸行事、事業、自然災害、テロ等の被害を受けたお寺に対してもその支援を積極的に展開し、単なる奨学金に留まらない支援に拠出するところにあります。

この細目を総会でご承認いただいたことにより、SOTO禅インターナショナルの年間通常会計から独立に拠出できるため、突発的な災害等に対しても限度額内で見舞金を送る事ができるようになり、フットワークよく積立金を有意義に活用出来ると思っております。

現在、この積立金の規模からして年度毎に総額で100万円を超えることが出来ないことになっておりますが、会員が増え、積立額が増えてくれば年度総額を増やし、その活用規模を大きくしたいと思っております。

今後とも会員皆様のご協力をよろしくお願いし、その活用成果にご期待ください。

平成18年度「国際布教支援金」への応募開始！！

応募資格：曹洞宗の国際布教事業に対する内外の寺院、団体、個人
支援額：年度総額100万円
お問い合わせ：次頁細目をお読みいただき、SOTO禅インターナショナル事務局へ

申込書はＳＺＩのホームページからダウンロード、もしくは事務局にお申し出ください

国際布教支援積立金運用細目

制定　2006年２月28日

（名称）

第１条　この積立金の名称を、SOTO禅インターナショナル国際布教支援積立金（以下、国際布教支援金）と呼ぶ。

（目的）

第２条　この細目は、SOTO禅インターナショナル（以下ＳＺＩ）の会則にある目的と事業（育成支援、自然災害支援を含む）をより円滑に推進するために拠出を行うことを目的とする。

（支援対象）

第３条　国際布教支援金の対象は、曹洞宗の国際布教事業に対する内外の寺院、団体、個人とする。

（運営委員会）

第４条　国際布教支援金の拠出に関する運営と選考にあたっては、ＳＺＩ国際布教支援積立金運営委員会（以下、運営委員会）において行う。

（委員会）

ＳＺＩ会長
委員長　　１名　（ＳＺＩ副会長から１名）
委　員　　若干名
幹　事　　ＳＺＩ事務局長

２）国際布教支援金運営会は、ＳＺＩ事務局内に置く。
３）委員長は、ＳＺＩ会長が副会長から１名を選任し、委員会を統括する。
４）委員は、ＳＺＩ役員会において選任し、会長が任命する。
５）幹事は、ＳＺＩ事務局長をもって充て、選考及び国際布教支援金の拠出に関する事務を掌理する。
６）委員の任期は２年とし、再任は妨げない。

（支援金の限度額）

第５条　国際布教支援金は、総額で年度毎に100万円を超えることができない。

（支援金の申請）

第６条　国際布教支援金の拠出を受けようとするものは、ＳＺＩ会長に申請しなければならない。

２）申請は、事業計画書（書式指定）をもって申請する。
３）ＳＺＩ会長が申請を受けたときは、速やかに委員長をとおして運営委員会を開催しなければならない。
４）申請の受理に当たっては、すでに前条に定める限度額を満たしている場合は、これをしない。

（審査）

第７条　国際布教支援金の交付ならびに第10条に定める報告書は、運営委員会を構成する委員がこれを審査する。

（支援金の取消、停止、返還）

第８条　虚偽の申告があったなどの場合、選考委員会がこれを審査の上、国際布教支援金の取消、停止、及び返還を求めることができる。

（義務）

第９条　国際布教支援金の交付を受けたものは、支援金交付の際に指定された期日までに報告書（書式自由）を提出しなければならない。

（返還の義務）

第10条　国際布教支援金の交付を受けたものは、第９条の義務を果たすことによって、返還はしなくても良いものとする。なお、選考委員会を構成する選考委員がこれを審査する。

（会員への報告）

第11条　国際布教支援金の交付があった場合、翌年度の総会において運営委員長により報告を行う。

（委任）

第12条　この規程の施行に関し、必要な事項は運営委員会が別に定める。

附　則　この規程はSOTO禅インターナショナル会則第16条第３項に則り、2006年３月１日から施行する。

… 海外レポート …

セガキ・セレモニー　イン　オランダ

富士市慶昌院 住職　**磯 田 浩 一**

「コウイチさん、ゼンリバーが動きだして４年、いろいろな国に沢山のメンバーも増えたけれどその中には亡くなった方やまたその家族を亡くしたり・・・そういう人たちやまたそのペット達までもみんな一同に供養をする何かいい方法はないだろうか？」

オランダ「ゼン・リバー（http://www.zenriver.nl/）」で、初めて施食会が執り行われたきっかけは、住職の「天慶・コペンス」老師とのこんな会話からでした。

ゼンリバーの３月は、冬の制中が終わる時です。特に解制までの１週間あまりは摂心を行い、最終日は12月の結制から禁足を守ってきた首座による「首座法戦式」が執り行なわれ、夜にはパーティーを開いて解制を祝うといった感じです。

昨年の３月に私がゼンリバーを訪れた際、それまでの法戦式の進退は天慶老師が修行をされたユタ州の「観世音禅センター（http://www.kzci.org/）」の法式で執り行なわれてきましたが、場所の問題から「日本式」にしたいということでお手伝いさせて頂くために渡欧いたしました。

「セガキ・セレモニーだったら、天慶老師が描いているような形で供養ができると思いますよ」と言うことで納得し、「とりあえず今年の夏にやりましょう！」と決めて詳細はＥ－mailでやり取りをする事にしました。

さて、それから支度を始めたわけですが、少しずつ問題も出てきました。「施餓鬼幡」などはこちらから持っていけば済みましたが「施餓鬼棚」や、その他荘厳は現地調達をしなければなりませんでした。そして何より、『甘露門』の読み方、焼香の進退等難問は盛り沢山、準備を始められたのは６月の終りくらいからで、なかなか思うように進まずにいました。そんな中、夏になりお盆を迎えようとしたときに朗報が飛び込みました。

「總持寺から、ヨーロッパの禅道場を体験したいということで、『松田さん』という雲水さんが数週間滞在する事になりました。」という天慶老師からのメールでした。

『甘露門』を説明するには、どうしても「題」を読む事が必要となり、また導師の進退にはどうしても三遍返しが必要だったので、松田さんに「メンバーに『甘露門』を題付の三遍返しで読めるように指導していただけますか」とお願いして練習を始めて頂きました。その後１週間、毎食事の前に五観の偈の代わりに『甘露門』を読んで頂いたお陰で私がオランダに到着した翌日から、進退の練習ができるようにまでなりました。「施餓鬼」を見たことがある人が私と松田さんの二人しかいない中、いよいよ「一」からの進退慣らしが始まりました。施餓鬼棚を須弥檀に飾れない事を説明して、御本尊様と対面するようにテーブルをあつらえて施餓鬼棚を設けました。ゼンリバーのメンバーには様々な職種の人がいます。その中の腕のいい大工さんにその場で「オーダーメイド」の施餓鬼棚を作ってもらいました。急いで棚を作らなければならなかったので、施架を囲む四十九枚の板は一枚の板を「山切りカット」にして、その場を凌ぎました。四方を飾る「竹」も無かったのでそれに近いような枝を取ってきて括り付けました。

日本から持ってきた「真幡」が施餓鬼棚の雰囲気をかもして出していましたが、それ以外は様々な物があがりました。「父が好きだったから・・・」とハイネケンビールやベルギーのビール。クッキーやチョコレート、フルーツとあっと言う間に「洋風供物」が揃いました。お茶も

segaki

segaki.altar

色々話し合った結果「ブラックティー」が供えられました。一応、メンバーには施餓鬼棚の高さの意味、桃などが相応しくない理由等を説明しましたが、「餓鬼も好きかも知れないし・・・」と言うことで様々のものが上がったのでした。

今回のオランダへは私の二人の娘も連れて行き施食会に参加させました。他にもイギリスから夏休みで来ていた家族の4人の子供たちも同じく施食会に参加しました。施架の支度の間にキッチンへ行ったら、子供たちは野菜で「馬と牛」を作り始めていましたが、どうやら私の娘たちが「お盆」と混同したらしく「これに乗ってみんなここへ来るんだよ」と説明したようです。そのうちに小さい子は人参で「ロボット」を作りだしたりと、とにかく子供たちも楽しくやっているからいいだろうと言うことで、そのままみんなの思いを載せた賑やかな棚になりました。

segaki.kids.paintings

今回天慶老師から、「みんなが参加できる法要に」と言うことで、子供たちにも一役担ってもらうことになり、一人一人に「六道」をイメージしてもらい、それを大きな画用紙に描いて道場に飾る事にしました。ある日の昼食に天慶老師が子供達に六道の説明をして、そのイメージをそれぞれどんな感じに描いているかを話し合いました。天慶老師は以前、学校で美術の教鞭もとっておられただけあり、子供たちへの的確な御指導により各々の思いを上手にデザインさせる事ができ、鮮やかな6種類の「六道絵」が完成しました。極楽から地獄まで描かれた中、「畜生道」は子供たちには「ペット」のイメージが強く「人道」のすぐ後に来る事になりました。

施食会当日は夜の8時打ち出しで法要が始まりました。夜の8時といってもこの時期のオランダは、ちょうど日が沈む「夕方」の時間帯です。照明もそんなに明るくなく、厳かに法要は始まりました。

当日『甘露門』を初めて読む人もいましたが、とにかく『大悲心陀羅尼』から始まったお経は「荘厳」の一言に尽きました。

宗門には「梅花流詠讃歌」と言うものがありますが、ゼンリバーでは行われていません。参加するメンバーからは沢山あるお経を如何に「音吐朗々」且つ「丁寧」に読むかに精進している姿が伺えます。その彼らの読経には力強さがあります。それはまるで、キリスト教の「ゴスペル」という音楽に通じる力強さです。やはり幼少から聞きなれ身体にしみこんできた「教会音楽」が、そのような「発声と調和」を自然につくってきているのではないかと思わざるを得ません。「お経は耳で読め」という言葉を各々が自然に感じ取っているのです。

メンバーは縁があって禅の世界に入ってきたわけですが、禅はすでにそれぞれの生活の一部になっています。そこに参列した日本人の私は、三国伝灯の我が宗門が、遥か地球の裏側で新たに次の異文化に溶け込んでいる姿を感じました。

「セガキ・セレモニー」は至極順調に円成いたしました。法要後はその読経の雰囲気に感動し、誰もが参加者数以上の人の集まりをそこに感じました。全員が本来の施餓鬼供養の意味を完全に理解していたわけではありませんが、手作りの施餓鬼棚に参加者それぞれの思いが集められた「温かい」法要になりました。特に回向偈はその意味が、メンバーには感銘する所が大きいということだったので、全員で「イースーシューアン・・」と木魚付で読んだ後、維那が一人で英訳したものを再び読みました。

禅がヨーロッパに広まっていく上で「形」を変えなければいけない部分が生まれてくるのは当前の事です。一から十まで日本と同じようには行きません。形を変え作法を変え、それぞれの人種、国にあったものに変わっていく中で、初めて中心の教えが伝わっていくのではないかと思います。道元禅師によって中国から日本に伝えられたものが、更に他の国に伝えられたことによって、新しい物が表に出てきている。そんな何かがこのオランダにはある気がしました。日本から伝播した外国の禅は日本の「支店」ではありません。それを見て新たに覚る「逆輸入」もこれからは沢山あると思います。

ここでは「まずは坐る」の姿勢が常に保たれています。

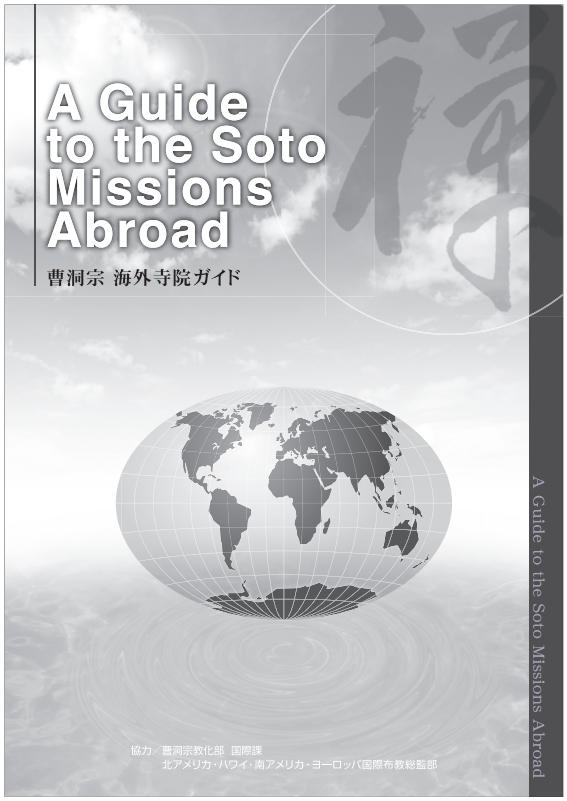
ゼンリバーは私にとって日本から見たヨーロッパ、ヨーロッパから見た日本のそれぞれの禅への思いや考え方を交わす貴重な繋がりです。　　合掌

今回ゼンリバーで行われた「セガキ・セレモニー」を家庭用ビデオで収録いたしました。45分間の法要は編集もしてありませんが、興味のある方はDVDにして進呈いたしますのでご連絡下さい。映像はさほど良くありませんが、前筆した「お経の雰囲気」は感じ取る事ができます。

連絡先 ✉ kisho@thn.ne.jp

『海外寺院ガイドブック』編纂について

海外寺院ガイドブック 編纂委員会



かねてより計画していた海外寺院ガイドブックを今年度中に編纂することになりました。これまで宗門では海外寺院が紹介されているのは寺院名鑑に記載されているだけであり、詳しい内容についてはわかりませんでした。また、『宗報』あるいは当会が発行する会報などで個々の海外寺院が紹介されていますが、全体としてまとまったものはないのが現状です。そこで海外寺院ガイドブック編纂委員会（編纂委員は、福島伸悦、細川正善、亀野哲也、大谷有為の４名）を設置し、今年度中発行に向けてスタートしました。この事業を推進するためには、曹洞宗宗務庁教化部国際課の協力なしにはできません。そこで、河村松雄教化部長老師をはじめ国際課の皆様とも何回か協議を重ね、ご協力ご支援をいただく事ができました。また、実際に現地を把握しておられるハワイ・北アメリカ・南アメリカ・ヨーロッパの各国際布教総監老師の協力も不可欠であり、依頼の際には教化部長老師より協力要請のお手紙を添えていただくこともできました。

この海外寺院ガイドブックは、国際布教の重要性を日本国内の寺院有識者の皆様に認識していただくとともに、曹洞宗海外寺院同士のネットワーク作りにも寄与すると考えるものです。内容は、国・住所・電話・ファックス・メールアドレス・空港からの交通アクセス・周辺ガイド・沿革・歴代・諸活動・年間行事等で、可能であれば国際布教師名簿も付録として作成したいと考えており、掲載したサンプル画像のような体裁で編纂する予定です。なお、スケジュールは以下のようになっています。

３月	各総監部並びに各海外寺院へ協力要請状送付（済）
７月１日	原稿締め切り
９～10月	校正作業
11月	発行

（文責・福島伸悦）

ＳＺＩ通信

寄付者・会費納入者名簿
2006年３月31日まで

◆賛助金

曹洞宗宗務庁様

◆ＳＺＩ会費納入者

新規会員並びにご継続ありがとうございます。
（３月31日まで・敬称略・順不同）

戸塚区　福泉寺　　岩波道俊
豊島区　泰宗寺　　旗本宏昌
JTB本社　営業一部
鶴岡市　般若寺　　藤川享胤
新潟市　興源寺　　田宮隆児
平塚市　浄心寺　　栃堀真英
浜松市　随縁寺　　内山秀山

梅花法具提供の御礼

皆様からご提供いただきました梅花法具を、アメリカの地において頂戴いたしました。異国の地においては、その国の文化、歴史により、音楽性や言語に違いはありますが、鈴や鉦の奏でる美しい音色には、その壁を越えて共鳴する大きな力があるようです。法具を手にし、皆のやる気がさらに増すことと思われます。アメリカの地に、美しい梅の花が咲き誇るよう励んでまいります。皆様のご厚徳に深く感謝を申し上げます。　　合掌

Soto Zen Buddhism International Center
伊藤祐司　九拝

ＳＺＩホームページ運営中！

ＳＺＩでは、活動報告の他、皆様との交流の場を設けています。お陰様で日本も含めて世界各国の方々にご覧頂いており、好評もいただいております。

今後より一層、情報の共有と交流の促進のために、これまでのホームページとＢＢＳ（掲示板）に加えて、新しく、ＳＺＩのブログサイトも開設致しました。

http://www.soto-zen.net/
http://www.soto-zen.net/blog/

ご意見・ご質問等、
スタッフ一同お持ち申し上げます。

2005年度　ＳＺＩ活動日誌
（2005年１月１日～12月31日）

１月11日	発送作業	東京
１月23日	国際布教師を囲む懇談会	東京
２月10日	総会・講演会・懇親会	曹洞宗檀信徒会館
３月１日	総会報告発送	事務局
３月15日	役員会	曹洞宗檀信徒会館
６月５日	会報発送	事務局
５月19日	編集会議	東京
６月23日	国際布教支援積立運営準備委員会	曹洞宗檀信徒会館
６月27日	大本山永平寺ワークショップ	大本山永平寺
６月28日	大本山總持寺ワークショップ	大本山總持寺
６月28日	新旧南米総監慰労壮行会	東京
７月８日	世界青年宗教者平和会議参加	愛知万博会場
７月10日～21日	熊本聖護寺・国際安居へ通訳１名派遣	熊本・聖護寺
７月19・20日	夏期大学講座協力	曹洞宗檀信徒会館
８月２日	編集会議	東京
８月21日	会報発送	事務局
９月２日	ゆめ観音会場設営	大船観音寺
９月３日	ゆめ観音アジアフェスティバル	大船観音寺
９月11日～13日	世界宗教者平和の集い参加	フランス・リヨン
11月30日	役員会・編集会議	東京
12月４日	役員会	熱海
12月12日	国際課との連絡会議	曹洞宗檀信徒会館
12月17日	神奈川県知事より表彰を受ける	大船
12月20日	会報発送	事務局

訃　報

３月31日、73歳で御遷化されました元曹洞宗宗務総長・大竹明彦老師の本葬が、４月５・６日の日程で名古屋市熱田区・全隆寺に於いてしめやかに執り行われました。

宗門の国際布教へのご功績はもとより、ＳＺＩ設立当時の宗務総長としてＳＺＩ設立に際し多大なるご理解ご協力をいただいた大竹老師の突然の御遷化は、計り知れない大きな損失であります。

会員一同心からお悔やみを申し上げます。

２００６年

ＳＺＩ両大本山ワークショップのご案内

2006年のＳＺＩ両大本山ワークショップは下記の日程で開催されます。総持寺におけるワークショップはどなたでも聴講できますので、是非ご参加下さい。海外での布教現状を知って頂き、相互の布教活動の活性化に貢献できればと思います。

・總持寺

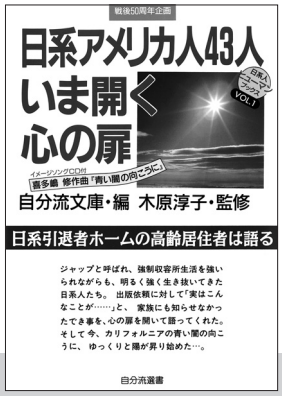
講　師　　ブライアン・バークガフニ先生
（長崎総合科学大学・地域科学研究所教授）
演　題　　日本の禅・世界の禅　―　在日34年の体験から
日　時　　６月23日（金）　午後２時30分～（晩課終了後）
会　場　　大本山總持寺　三松閣大講堂
（どなたでも参加可能です）

・永平寺

講　師　　町田宗鳳先生（東京外国語大学教授）
演　題　　誰のために修行しているのか
日　時　　７月３日（月）　午後６時50分～
会　場　　大本山永平寺（本講のため、修行僧のみです）

問い合わせ先　SOTO禅インターナショナル事務局

このたび、９月９～10日の日程で、ドイツ・ミュンヘンにある普門寺で創立10周年の記念行事が予定されております。普門寺友の会では、この行事に合わせて、ツアーを計画しております。つきましては、ＳＺＩの会員の皆様にこのツアーをお知らせしていただきたいとの依頼を受け、旅行計画書を同封いたしました。詳細な内容及びツアーのお問い合わせ先は、同封資料をご確認ください。



本の贈呈

戦後50周年企画として、日系アメリカ人の特異な生きざまをインタビューしてまとめた『日系人ヒューマンブック』シリーズの本が12年前に刊行されました。このたび、福島会長のご好意で会員の皆様にお届けさせていただくことになりました。一読くだされば幸甚に存じます（送付いたしました本は三種類の内、一冊です）。